別に、基質溶液２mLを全量ピペットを用いて量り、15mLプラスチック製遠心沈殿管に入れ、これに反応停止発色液２mLを全量ピペットを用いて加え、かき混ぜた後、試料溶液１mLを全量ピペットを用いて加え、よくかき混ぜ、室温で20分間放置し、更に2,500×ｇで10分間遠心分離を行い、得られた上澄液を試験対照溶液とする。この溶液につき、水を対照液として波長415nmにおける吸光度OD_Bを測定する。

１ｇ中のフィチン酸分解力単位

$$=(OD_T-OD_B)\times F\times V\times\frac{1}{60}\times\frac{1}{W}\times Z$$

Ｆ：検量線から求めた吸光度差１に対応するリン酸イオン濃度（μmol／mL）

Ｖ：試料溶液の定容量（mL）

Ｗ：試料採取量（ｇ）

Ｚ：希釈倍率

検量線の作成

105℃で２時間乾燥させた後、デシケーターで保存したリン酸二水素カリウム0.098ｇ（0.0975～0.0984ｇ）を量り、0.25mol／Ｌ酢酸ナトリウム緩衝液（pH5.5）を加えて溶かし、100mLの全量フラスコに入れ、更に0.25mol／Ｌ酢酸ナトリウム緩衝液（pH5.5）を標線まで加えて100mLとした後、pH5.5であることを確認し、7.20μmol／mL標準原液を調製する。

標準原液の一定量をそれぞれ試験管に入れ、0.25mol／Ｌ酢酸ナトリウム緩衝液（pH5.5）で正確に1.25倍、2.5倍、５倍及び10倍に希釈し、標準液Ｓ１、Ｓ２、Ｓ３及びＳ４を調製する。

各標準液１mLを全量ピペットを用いて量り、15mLプラスチック製遠心沈殿管に入れ、基質溶液２mL及び反応停止発色液２mLを全量ピペットを用いて加え、よくかき混ぜ、室温で20分間放置し、更に2,500×ｇで10分間遠心分離を行い、得られた上澄液をリン酸標準反応溶液とする。試験反応液と同様に操作法に従い、OD_{S1}、OD_{S2}、OD_{S3}及びOD_{S4}を測定する。別に0.25mol／Ｌ酢酸ナトリウム緩衝液（pH5.5）１mLを全量ピペットを用いて量り、15mLプラスチック製遠心沈殿管に入れ、基質溶液２mL及び反応停止発色液２mLを全量ピペットを用いて加え、よくかき混ぜ、室温で20分間放置し、更に2,500×ｇで10分間遠心分離を行い、得られた上澄液をリン酸標準対照溶液とする。試験反応液と同様に操作法に従い、OD_{SB}を測定する。リン酸イオン濃度を縦軸に、測定したOD_{SB}との吸光度差（$OD_{S1}-OD_{SB}$）、（$OD_{S2}-OD_{SB}$）、（$OD_{S3}-OD_{SB}$）及び（$OD_{S4}-OD_{SB}$）を横軸にとり、検量線を作成する。

⑨～⑫　（略）

⒂～㊴　（略）

７　飼料添加物一般の試験法並びに各飼料添加物の成分規格及び製造方法等の基準に用いる標準品、試薬・試液、容量分析用標準液、標準液、色の比較液、計量器・用器、ろ紙、滅菌法及びベルトラン糖類定量表の規定

⑴　（略）

⑨～⑫　（略）

⒂～㊴　（略）

７　飼料添加物一般の試験法並びに各飼料添加物の成分規格及び製造方法等の基準に用いる標準品、試薬・試液、容量分析用標準液、標準液、色の比較液、計量器・用器、ろ紙、滅菌法及びベルトラン糖類定量表の規定

⑴　（略）